

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
臨床心理学基幹科目群	臨床心理学原論	臨床心理学の全体像を実践的に広く理解できることを目標とする。そのために臨床心理学の歴史を踏まえ、その専門性、基本的論点、心理面接の構造や面接経過、心理アセスメントの原則を学ぶとともに、代表的な心理療法論を通して心理面接の特質と心理面接の進め方の特徴、およびグループアプローチ、さらには地域と連携するためのコンサルテーションの方法を、実際の事例を紹介しながら講義を行う。	
	臨床心理面接学原論	臨床心理面接について、講義形式や論文講読に加え、専門職大学院の理念に添ってロールプレイなどを積極的に導入し、面接技法、治療構造論、事例の見立て方、事例報告のまとめ方などについて体験的に基礎的な技術を習得することを目標とする。内容としては、臨床心理士及び研究に関する倫理、臨床心理面接の意義や概念、基本的な技法を修得し、面接形態のなかからは電話受付実務、インテーク面接、プレイセラピー、親面接について、該当する論文や事例論文の講読・ディスカッションを行い、さらにロールプレイを導入して臨床心理学の根幹となる知識や技能を体得することを旨とする。	
	臨床心理査定演習Ⅰ	心理アセスメントは観察法、面接法および心理検査法による三つのアセスメント法がある。本演習では、まず、概論として臨床心理学における心理アセスメントの位置づけや意義、導入する際の心構えや研究・職業倫理的配慮について学習し、ロールシャッハ法など諸技法について学ぶ。その後、具体的な事例を用いて、心理検査の実施法や解釈法を学ぶ。本演習では、とくにテストィ・テスター体験を導入して体験的に学ぶ。	
	臨床心理査定演習Ⅱ	本演習では、職業倫理や研究倫理を再学修した上で、1) 心理臨床における査定について理論的および実践的に理解し、2) 実施および解釈の基本的技法を習得することを目標とする。1) については、客観性（公共性）と共感性（クライアントの内的世界の追体験）の両面を大切にす姿勢を学ぶ。2) については、ロールシャッハ法、TAT/CAT、HTP、MMPI、WISC等を取り上げて、その施行や解釈方略、所見の書き方等について学習する。	
	臨床心理面接演習Ⅰ	臨床心理面接について、クライアントとの心理面接の契約の仕方、事例の見立て方、面接の目標設定の仕方、面接過程を促進するための導入期、展開期、終結期の技法と留意点、などの基本的知識と技能を、事例研究論文から学ぶだけでなく、ロールプレイなどの実際体験をとおして、個別支援能力、集団支援能力、地域支援能力に結びついた臨床実践力として修得することを目標とする。	
	臨床心理面接演習Ⅱ	受講生の臨床心理面接についての基礎理解と体験的理解を深化させるためにグループ調査、発表、ディスカッションにより授業が進められる。体験的理解の基盤となるのは、受講生自身が経験する心理臨床相談室における電話受付、インテーク陪席ならびに学外実習での臨床体験である。本演習においては、受講生同士が相互にディスカッションを行い、知識と体験を融合し、自らの体験と結びつけながら深化させることで臨床心理面接を実施する構えを養う。さらに、この授業を通して個別支援能力、集団支援能力、地域支援能力を涵養することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
臨床心理学 基幹科目群	臨床心理査定 ・面接実習Ⅰ	<p>心理臨床相談室における学内実習の基本事項を実践的に学ぶ。 (2名の教員による共同担当 / 全15回) (松浦隆信 / 15回)</p> <p>電話受付、インテーク面接から来談契約、構造化された臨床心理面接に至るまでの流れについて実習を通して理解する。 (宇都宮敦浩 / 15回)</p> <p>発達障害、気分障害、統合失調症等、病理や障害の特性による心理査定の方法とあり方について学習する。</p>	
	臨床心理査定 ・面接実習Ⅱ	<p>心理臨床相談室における実際の心理面接を通して、心理臨床における心理面接のあり方の基礎を実践的に学ぶ。 (2名の教員による共同担当 / 全15回) (松木 繁 / 15回)</p> <p>神経症圏、精神病圏、人格障害圏など、対象別の臨床心理面接のあり方について実際的に学習する。 (松浦隆信 / 15回)</p> <p>わが国における代表的な臨床心理面接技法に関して、心理面接を通して体験的に学習する。</p>	
	臨床心理査定 ・面接実習Ⅲ	<p>心理臨床相談室における実際の心理査定を通して、心理臨床における心理査定のあり方の基礎を実践的に学ぶ。 (2名の教員による共同担当 / 全15回) (金坂弥起 / 15回)</p> <p>相談事例における知能検査、発達検査、質問紙による性格検査の適切な施行法や解釈のあり方について学習する。 (松木 繁 / 15回)</p> <p>相談事例の心理査定における児童、父母、親族、その他に対する聴き取りのテクニックについて学習する。</p>	共同
	臨床心理査定 ・面接実習Ⅳ	<p>心理臨床相談室における実際の心理査定・心理面接を通して、心理臨床における心理査定・心理面接のより高度な側面を実践的に学ぶ。 (2名の教員による共同担当 / 全15回) (宇都宮敦浩 / 15回)</p> <p>相談事例における投射法による性格検査の適切な施行法や解釈のあり方について学習する。 (金坂弥起 / 15回)</p> <p>臨床心理面接実習の発展的課題として、より効果的で効率的な臨床心理面接を行うために必要な技法の習得を目指す。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
臨床心理学 展開科目群	臨床心理関連 行政論	心理臨床家に必要とされる法律や倫理について学ぶ。教育、福祉、医療、司法・矯正の各領域において、それぞれの専門機関の運用根拠となる法律や臨床心理の実務に関連する条文に触れ、法的枠組みの下での心理臨床の実践について基礎的な知識を身につける。また、法令根拠が異なる関係機関同士の連携のあり方や心理臨床家としての役割について、具体的な事例をもとにして理解を深める。更に、個人情報保護や多重関係、各種ハラスメントなどの人権、倫理にまつわる問題についても理解と認識を深めるため、討議形式による演習を進めて行く。	
	臨床心理事例 研究演習Ⅰ	1年次の学習を受け、心理臨床に関わる基礎的理解や実践を基に、最近の理論や技法を体系的・実践的に学習する。特に心理面接技法に焦点を当て、自らの体験事例を中心に1年次の学習を深化させながら、論文執筆に繋がる学びを得ることを目標とする。 (2名の教員によるジョイント担当) (中村真樹・松木繁 / 1回) 授業進行に関するオリエンテーションと共に、事例研究論文に関する概説を行う。 (中村真樹 / 7回) (松木繁 / 7回) 公刊された事例研究論文および自らの体験事例をもとに、論文構成、事例の概要や面接経過の記述、考察の視点などについて学ぶ。	
	臨床心理事例 研究演習Ⅱ	1年次の学習を受け、心理臨床に関わる基礎的理解や実践を基に、最新の理論や技法を体系的・実践的に学習する。 (2名の教員によるジョイント担当) (中原睦美 / 5回) 心理査定における倫理や所見の書き方、多様な臨床領域における心理臨床のあり方やコラージュに関する内容について指導を行う。 (宇都宮敦浩 / 8回) 思春期臨床や非行臨床における文章完成法、各種描画法の活用法、及びWAIS-ⅢとTATの実施・分析法について指導を行う。 (中原睦美・宇都宮敦浩 / 2回) 授業内容のまとめを行い、内容理解の深化を図る。	
	臨床心理実践 研究Ⅰ	学内実習を通して得られた心理臨床の力を、臨床心理地域援助に活用できるような臨床実践能力の定着・深化を図る。 (5名の教員による共同担当 / 全15回) (金坂弥起 / 全15回) 地域援助のできる臨床心理査定の基礎的能力を養う。 (松浦隆信 / 全15回) 地域援助のできる臨床心理面接の基礎的能力を養う。 (稲谷ふみ枝 / 全15回) 地域援助を行う臨床心理士としての基本的視点を学ぶ。 (未定 / 全15回) 地域援助を行う臨床心理士としての倫理を学ぶ。 (高橋佳代 / 全15回) 種々の文献を通して多様な地域援助のあり方を学ぶ。	共同
	臨床心理実践 研究Ⅱ	臨床心理査定や臨床心理面接の基本的能力の獲得を確認し、個別、集団、地域、危機介入などの臨床心理地域援助能力に結びつける。 (4名の教員による共同担当 / 全15回) (宇都宮敦浩 / 全15回) 地域援助における個別支援の実践力を身につける。 (松木 繁 / 全15回) 地域援助における地域支援の実践力を身につける。 (中原睦美 / 全15回) 地域援助における危機介入の考え方を身につける。 (中村真樹 / 全15回) 地域援助における集団支援の考え方を身につける。	共同

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
臨床 心理 学 展 開 科 目 群	臨床心理実践 研究Ⅲ	地域援助者としてより高度な臨床実践能力を身につける。 (4名の教員による共同担当 / 全15回) (松木 繁 / 全15回) 福祉領域における地域援助の実践力を身につける。 (宇都宮敦浩 / 全15回) 司法・矯正領域における地域援助の実践力を身につける。 (中原睦美 / 全15回) 危機介入におけるより多面的な考え方を身につける。 (中村真樹 / 全15回) 集団支援におけるより高度な考え方を身につける。	共同
	臨床心理実践 研究Ⅳ	地域援助者として必要な総合的臨床地域援助能力を身につける。 (5名の教員による共同担当 / 全15回) (松浦隆信 / 全15回) 教育領域における地域援助の実践力を身につける。 (金坂弥起 / 全15回) 医療領域における地域援助の実践力を身につける。 (稲谷ふみ枝 / 全15回) 臨床地域援助における総合的な視点を身につける。 (未定 / 全15回) 地域援助におけるコミュニティ心理学の視点を身につける。 (高橋佳代 / 全15回) 種々の文献を通して多様な地域援助のあり方を学ぶ。	共同
	臨床心理地域 援助実習Ⅰ	学外実習により、心理支援の実践力を修得することを目的とする。 各機関の機能とスタッフの職務及び臨床心理士の役割について学習 する。 (4名の教員による共同担当 / 全15回) (松浦隆信 / 15回) 福祉領域の各実習機関についての理解を図る。 (金坂弥起 / 15回) 医療領域の各実習機関についての理解を図る。 (宇都宮敦浩 / 15回) 司法・矯正領域の機関についての理解を図る。 (松木 繁 / 15回) 教育領域の各実習機関についての理解を図る。	共同
	臨床心理地域 援助実習Ⅱ	学外機関における心理査定のあるあり方について、基本的な考え方と技 術を学び、臨床心理査定の実践力を身につける。 (4名の教員による共同担当 / 全15回) (金坂弥起 / 15回) 医療領域における臨床心理査定の実践力を身につける。 (宇都宮敦浩 / 15回) 司法・矯正領域における臨床心理査定の考え方を身につける。 (松木 繁 / 15回) 教育領域における臨床心理査定の実践力を身につける。 (松浦隆信 / 15回) 福祉領域における臨床心理査定の実践力を身につける。	共同

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
臨 床 心 理 学 展 開 科 目 群	臨床心理地域 援助実習Ⅲ	<p>学外機関における心理面接のあり方について、基本的な考え方と技術を学び、臨床心理面接の実践力を身につける。 (4名の教員による共同担当 / 全15回) (宇都宮敦浩 / 15回)</p> <p>司法・矯正領域における臨床心理面接の考え方を身につける。 (松木 繁 / 15回)</p> <p>教育領域における臨床心理面接の実践力を身につける。 (松浦隆信 / 15回)</p> <p>福祉領域における臨床心理面接の実践力を身につける。 (金坂弥起 / 15回)</p> <p>医療領域における臨床心理面接の実践力を身につける。</p>	共同
	臨床心理地域 援助実習Ⅳ	<p>学外機関における集団支援及び地域支援のあり方について基本的な考え方と技術を学び、心理支援の応用的実践力を身につける。 (4名の教員による共同担当 / 全15回) (松木 繁 / 15回)</p> <p>教育領域における集団・地域支援の実践力を身につける。 (松浦隆信 / 15回)</p> <p>福祉領域における集団・地域支援の実践力を身につける。 (金坂弥起 / 15回)</p> <p>医療領域における集団・地域支援の実践力を身につける。 (宇都宮敦浩 / 15回)</p> <p>司法・矯正領域における集団・地域支援の考え方を身につける。</p>	共同
	総合的事例研 究演習Ⅰ	<p>2年間の専門職学位課程のまとめとして、臨床心理士業務の4つめの柱であるリサーチ能力を養成するため、研究倫理ガイドラインにそった事例論文のあり方を学ぶ。 (9名の教員による共同担当 / 全15回) (稲谷ふみ枝 / 15回) (宇都宮敦浩 / 12回) (中原睦美 / 12回) (松木 繁 / 12回) (金坂弥起 / 12回) (高橋佳代 / 12回) (中村真樹 / 12回) (松浦隆信 / 12回) (未定 / 12回)</p> <p>筆頭教員による3回の全体授業と9名の担当教員により、事例論文執筆に際しての視点のあて方や論文の書き方などを合同及び個別にて指導する。</p>	共同
	総合的事例研 究演習Ⅱ	<p>総合的事例研究演習Ⅰを受け、主に自分が担当した事例を基に事例論文執筆や発表を通して臨床体験を根付かせる。 (9名の教員による共同担当 / 全15回) (中原睦美 / 15回) (稲谷ふみ枝 / 15回) (宇都宮敦浩 / 15回) (松木 繁 / 12回) (金坂弥起 / 12回) (高橋佳代 / 12回) (中村真樹 / 12回) (松浦隆信 / 12回) (未定 / 12回)</p> <p>筆頭教員による2回の全体授業では、事例研究論文の構成や執筆のあり方及び臨床心理士としての職業倫理や研究倫理について学習する。さらに、9名の担当教員により、各臨床ゼミにおいて、論文執筆の事例の選択、テーマの絞り込み、キーワード決定、論文の構成、面接過程のまとめ方、倫理的配慮など、事例論文執筆の具体的な段階に関する指導を行う。最後の4回は事例研究論文発表により、2年間の学習の総括を行う。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考	
選択必修科目群	領域科目群	学校心理臨床論	不登校、いじめ、暴力行為など学校における子どものこころの問題は多様化し山積している。本演習では、そうした諸問題の解決のために必要な学校臨床心理学のあり方について、実際の学校場面を想定したうえで、ロールプレイやグループディスカッションを通して体験的に学ぶ。特に、近年、問題となっているいじめ問題については、ニューヨーク州の取り組み等を参考に取り入れて実践的な演習を組み立てたい。スクールカウンセリング業務の柱である児童・生徒、さらには保護者へ向けての個人的カウンセリングや教職員へのコンサルテーションの実際を学ぶだけでなく、学級集団、学校集団、さらには、地域を含めた学校コミュニティを見立てる力を養う。	
		福祉心理臨床論	福祉領域における諸問題は、家庭（虐待、DV、育児不安、貧困など）・障害（知的、身体、精神、発達）・高齢者（認知症、社会的孤立、介護など）をはじめ多岐に渡り、また支援を行う施設や公的支援制度も様々である。そこで本演習では、福祉領域の心理社会的諸問題の歴史、現況、支援制度などを広く概観し、それら諸問題に対する心理臨床的支援のあり方について、事例検討及びグループディスカッションを通して理解を深める。	
		医療心理臨床論	本演習では、医療領域、特に精神科医療現場において必要な基礎的知識、精神疾患に対する理解、臨床心理士の業務内容や他職種との連携のあり方、援助職として求められる資質などについて、可能な限り網羅的に概観する。その上で、医療領域における心理的アプローチの意義や必要性、臨床心理士に求められる役割について理解を深めていく。授業はロールプレイやグループディスカッションを中心に、受講生同士の相互啓発を図りながら体験的に理解を深めていく。	
		司法・矯正心理臨床論	本授業では、犯罪・非行に関する理論的な考察を行い、理解を深めるとともに、施設見学や演習を通じて実際的な学習を行う。まず、犯罪・非行のメカニズム、犯罪社会学、女性と犯罪、被害者支援等について、文献購読を中心に概観する。次に、司法・矯正領域で働く法務技官の実務について、刑務所等の矯正施設見学を通じて体験的に学ぶ。さらに、薬物依存者へのグループアプローチや性犯罪者のリスクアセスメントについて、視聴覚教材の視聴やディスカッションを通じて学習し、まとめの授業として、公刊された文献での精神鑑定事例等について討議を行い、実際的に理解を深めていく。	
		臨床精神医学特論	精神医学、精神医療は病的な精神状態を扱う医学、医療の一分野であるが、その内容は自然科学、人文学、司法、人権、社会保障など、極めて広い裾野を有する。本演習では、精神医学の基礎的な知識を広く獲得することを目的とするが、中でも一般的な精神科医療機関で接する頻度の高い精神疾患や、精神科診療に従事する際に知っておくべき精神医療独特の法制度などについては、より詳しく解説する予定である。本演習を通して精神医学の知識を学ぶとともに、精神科医療の現場に対する関心が深まることを期待する。	

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
選 択 必 修 科 目 群	領域 科目 群 臨床心理倫理 特論	心理臨床を業務とする職において、その前提は社会がその行為を援助行為と認めることにある。この社会との契約において、特に職能団体の成員という位置づけにある臨床心理士には、対象者への責任のある援助を保証するための倫理的判断・意思決定・行為を学ぶことが義務付けられている。本講義では、日本臨床心理士会「倫理ガイドライン」や基本テキストの講読や講義を通して、援助専門職のための職業倫理を学ぶことと、具体的な臨床場面でのより良い倫理的判断に基づいた臨床行為ができるための基礎訓練の機会を提供したい。	
	児童期心理臨 床論	児童は社会的状況の中で成長するものであり、認知能力、情緒的反応、関係性の能力、社会的行動等の児童の発達の様々な側面が研究されてきた。そして今日、児童を取り巻く環境はじわじわと児童にとって窮屈なものになり、その中で堪え切れなくなった児童は、さまざまな不適応反応を示す。本講義では、児童期におけるアイデンティティ形成過程について講じるとともに、様々な臨床的症候群や児童虐待などの問題を取り上げ、心理臨床家としての心理的援助の在り方について考える。	
	発達 科目 群 青年期心理臨 床論	自我心理学の発達と共に自我の発達過程が重要視され、特に、青年期におけるさまざまな発達課題やアイデンティティ形成の問題は、青年期の精神病理との関連において重要とされている。本演習では、青年期の心と発達課題を第二の個体化過程（Blos）と捉え、先ず、各段階での発達課題について概観する。その上で、自傷行為、摂食障害、強迫性障害、解離性同一性障害など、現代青年の特徴的な状態像を発達の観点から捉え直し、適切な心理臨床的援助のあり方についてロールプレイやグループワークなどの演習を通して学ぶ。	
	成人・老年期 心理臨床論	近年の発達観やライフスタイルの変化を背景とした、成人期以降の発達課題や精神機能、成人後期・老年期における心理的適応について学習する。まず、加齢・老化に伴う心理的影響について、認知機能、パーソナリティ側面、ストレスについて、精神医学、神経心理学領域の文献を精読する。その上で、成人以降を対象として、心理臨床、医療・福祉領域で施行されている心理査定、心理療法、ストレス支援の知識・技術を学び、心理臨床家としての専門性と他職種との連携のあり方を学ぶ。	
	発達障害者心 理臨床論	発達障害に関する診断学的な特徴、行動面・情緒面の諸特徴について学習する。乳幼児期の発達心理学研究からの知見と共に、発達障害に関する先端的な研究知見を学ぶことで、教育・医療・福祉・司法等の各領域の現場の臨床心理士に必要とされる発達障害への理解と対応の基礎を学ぶ。また、発達障害支援の上で重要となる、認知的能力や発達障害特徴に対する、国際的に標準化されたアセスメント技法の理解と習得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
選 択 必 修 科 目 群	エスノグラフィック心理臨床論	現在、わが国における心理臨床は、クリニックや相談機関等の非日常場面における伝統的な面接の場から、障害者やその家族や支援者など対象者の生きている日常世界に入り込むアウトリーチの臨床活動にシフトしてきている。これらの日常場面における心理臨床の効果的な展開のためには、対象者の生きる世界を文脈ごと理解するエスノグラフィック的な見立てや手法が必要である。また本授業では、フィールドワークを始めとする観察や面接の基礎となる観察スキルといった心理学研究法の基礎知識を学習する。	
	臨床心理査定特論	心理臨床の場では、パーソナリティや発達の特徴、認知機能や神経学的・精神科的症状など、領域や対象のニーズに沿った、多様な心理査定の実践技能が求められる。本演習では、児童や高齢者など、様々な領域での対象を想定した心理査定の実際について理解を深めることを目的とする。（3名の教員による共同担当 / 全15回） （未定 / 5回）（稲谷ふみ枝 / 5回）（高橋佳代 / 5回）	
	遊戯療法論	クライアントを「遊戯（プレイ）」により理解し、援助する遊戯療法について、遊戯療法の過程でセラピストが直面すると思われる重要な具体的課題に焦点をあてて講義を行う。子どもに対する心理援助を考えると、プレイセラピーはダイナミックで効果的な働きかけである。子どもは自ら成長し、発達していく創造的な力を持っている。セラピストがプレイを通して子どもの世界をいかに理解し支援していくのか、具体的事例を取り上げながら学ぶ。	
	集団心理臨床論	臨床心理学における集団心理療法は、病院や施設での患者（クライアント）や施設利用者の適応的な方向への行動変容や人格の成長・発達を援助することが目的であり、そのための集団による言語的・非言語的な心理療法的介入の方法である。本講義では、まず集団心理療法の基本的な理論を学習するとともに臨床適用のための基本的な方法について学ぶ。さらに、代表的な集団心理療法の一つであるサイコドラマの理論と方法を学び、臨床実践への応用法を学ぶ。	
	ストレスマネジメント論	文化・宗教・社会システムという広い視野から人の生活と健康行動及びその心理を講じ、ストレスに対するケアと予防に関する理論を紹介する。さらに、ストレスマネジメントを“生活に対する営み”と捉え、漸進性弛緩法や自律訓練法などのセルフ・リラクゼーションとペア・リラクゼーションを実際に指導して心理社会的ストレス過程における情動焦点型コーピングと問題焦点型コーピングの効果について論じる。	
	認知行動療法論	本講義では、認知行動療法の基盤をなす基礎心理学理論および疾患病理モデル等を概観した上で、第一世代から第三世代にわたる認知行動療法の発展の歴史と具体的技法について、講義に加えてロールプレイや事例読解を取り入れながら体験的に学習する。また、介入技法に共通性が多いと言われている第三世代の認知行動療法（ACT・MBCTなど）と、わが国で開発された森田療法との比較検討を行ない、認知行動療法の特質について論考を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
選 択 基 礎 科 目 群	臨床心理学入門	本講義は、心理学ならびに臨床心理学の基礎的知識を習得することを目的とする。心理学の中での臨床心理学の位置づけや臨床心理学の概要、心理療法の歴史、基本的な心理療法理論や技法、心理査定、心の問題と心理的支援の具体的アプローチのあり方などについて幅広く学習する。講義に加え、さまざまな視覚教材を導入したり、受講生同士によるディスカッションを加えたりしながら、専門職学位課程の基礎となる知識の定着を図る。学部で臨床心理学を専攻した人も歓迎する。	
	学習・行動心理学特論	我々を取り巻く環境は常に変化している。この流動化した環境でうまく生きていくためには、我々は常に新しいことを学んで行動していかなければならない。本年度の講義では、この学習と行動のメカニズムについて行動科学的、神経科学的に概説した上で、系統発生および個体発生の見地から、学習の適応機構としての位置付けを考察する。授業では、単に講義を聴くのみではなく、毎回レポーターが与えられたテーマについて調べてきたことを発表し、それをもとに全体で討論を行う。	
	認知心理学特論	生活体の本質は行動であり、行動の本質は学習にある。また学習が生じるのは記憶というメカニズムが存在するものであり、学習の本質は記憶である。また記憶されるものは、感覚や感情といった経験である。では、感覚や感情とはいったい何か。このように、本講義では私たちヒトを含む生活体の持つ様々な機能を統一的な視点から概観することにより、基礎的な生体機能の理解とともに、それがどのように臨床援助に役立つかを考える。講義を中心に進めるが、必要に応じて視聴覚教材等も効果的に盛り込む。受講者は既にある一定レベルの知識を有していると思うが、再度視野を広げるといった視点から積極的に参加して頂きたい。	
	社会心理学特論	人間は社会的動物であり、社会との関係性を抜きに人の心理や行動をとらえることは難しい。本講義では、人間の心理と社会現象との関係を分析するために社会心理学の知識と研究法を習得することを目標とする。特に、近年社会心理学の分野で注目されている、進化心理学と文化心理学について詳しく紹介する。授業では、複数のテキストを用いて受講生が発表、討論を行い、それらを通して、人の普遍性と多様性について社会心理学の視点から考察できるようになることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
選 択 基 礎 科 目 群	生涯発達論	<p>昨今の社会の急激な変化（自然及び生活環境の悪化、家庭機能の不全化など）によって、人の人格発達の過程は大きな影響を受け揺らいでいる。幼児虐待、不登校から引きこもりへ、青少年の病的な犯罪、中高年の自殺や危機などといった現象は、その背景にある発達的問題の解明と解決を追っており、その要請に貢献できる研究分野として生涯発達（life-span development）心理学がある。本講義では、生涯発達の各段階の特徴的テーマとそれにまつわる臨床的問題に関する諸研究について学ぶ。</p>	
	コミュニティ心理学特論	<p>コミュニティ心理学では、個人と環境との適合性のありようを理解し、両者の関係性に実践的に介入することを目指す。コミュニティ心理学的アプローチは臨床心理学実践において、心理査定・心理療法と同列の中核的概念であり、臨床心理士に必須に求められる技能である。本講義ではコミュニティ心理学の歴史、基盤となる概念を学ぶ。また、臨床心理学的知見から行われる地域支援活動の実際について紹介し、受講生自身がロールプレイの中で地域支援活動を実践する体験的な学習を行う。</p>	
	臨床精神薬理学特論	<p>医薬品の作られる開発段階から商品化されるまでの創薬プロセス、処方薬としての化学名を商品名、先発医薬品と後発医薬品の相違を知り、くすりを身近に感じる知識を習得し、臨床心理士がくすりのことを知る構えについて学ぶ。その上で、向精神薬：抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬などのこころの病に用いられる薬に精神薬理学的知識を得て、医師や薬剤師とコラボレートする能力と服薬を支える事を通したクライアントの生活支援の在り方について学ぶことを目標とする。</p>	